

# 中澤省一郎のSS経営メールマガジン No.34

(配信は不定期です。できる限り月1回以上は配信します)

## 第1部 鈴与エネルギーのJX傘下入で加速するフリート再編

- 本日の日経新聞11面に「鈴与の給油所傘下に：JXエネ」という記事が出ました。

[http://www.nikkei.com/article/DGXNASDD290CM\\_Z21C12A1TJ0000/](http://www.nikkei.com/article/DGXNASDD290CM_Z21C12A1TJ0000/)

私のメルマガNo.32(11月22日配信)第一部(2)フリートを中心とした小売再編で言及した内容の一部です。新聞記事では「フリート」という言葉は使わずに「郊外型給油所」となっています。一昔前のフリートは、元売子会社である会社は皆無でした。それは、フリートの業態自体がコンプライアンス上で次の二つの問題があったからだと思います。

- ・揮発販売業法の問題(軽油スタンドとしての設置+ガソリンの販売)
- ・地方税法(軽油税)の問題

しかし相当の時間の経過と共に、コンプライアンス上の問題が無くなったと思います。

今後も、フリートの再編は加速していくと考えてます。

その過程で重複フリートの閉鎖が進行し、フリートの経営効率は飛躍的に向上(経費は維持して、販売数量は倍増も)しますので、  
 ・元売にとっては収益の確保  
 ・GSにとっての脅威は今以上に拡大  
 となります。

- 大手のフリートをまとめると(私の頭の中ですので、間違っているかもしれません。ご容赦下さい)

	100%子会社	出資会社	非出資会社
エネオスマーク	《一光》	《太陽鉱油》 《山文商事》	《鈴与》=今回傘下入り 《宇佐美》
コスモマーク		《キタセキ》=出資比率大幅引き下げ	《西日本フリート》=丸紅エネ100%
シェルマーク			《新出光》 《吉田石油》 《コーナンフリート》=伊藤忠エネクス100% 《西日本フリート》=丸紅エネ100%
出光マーク			《宇佐美》
EMGマーク			《なし》=(-光、吉田石油が転籍したため)

※キタセキのコスモの出資比率大幅引き下げは、コスモ石油の経営問題が関係していて、例外だと考えます。

- フリートの元売傘下入の要因は、国内だけではなく海外にもあり、「軽油の輸出競争力の減退による国内販売回帰」です。

- ・WTI逆格差 ⇒ 日本の軽油の輸出競争力減退(南米、欧州)
- ・中国、韓国勢の新鋭大型製油所(中間留分の得率大、最新鋭) ⇒ 日本の軽油の輸出競争力減退(アジア)

2014年高度化法とパナマ運河の拡幅改修工事の完了という節目です。

- パナマ運河の拡幅改修工事の完了によりWTI逆格差の下で、軽油と共にガソリンもアジアに流れ込むでしょう。前後して、現在、軽油スタンドで起きている再編が、ガソリンスタンドでも起こると予想されます。《フリートの現在》=《ガソリンスタンドの将来》のように見えます。

## 第2部 「債務者区分早見表」でご自分の会社をご確認ください <http://nakazawa-cpa.net/>

- 10月に開催した「GS経営者のための会計・税務セミナーNo1」で作成・使用した「債務者区分早見表」をHPに掲示しました。「決算書を片手にチェック」をクリックしていただくと、「債務者区分」の表もありますので、一目でわかります。厳密ではありませんが、金融庁の公表している《A》「金融検査マニュアル」と《B》「金融検査マニュアル一別冊中小企業融資編」を参考にして作成しております。《B》により、中小企業は、この表よりもランクアップしている会社が多いですが「最悪の事態」を考えて経営をしてください。
- 前回のメルマガで「会社の実態を正確に把握」(経営者が変わる=現経営者の意識改革+後継者への権限移譲)の意味が分からないというご質問が有りましたので、少し解説します。

「どうして債務超過が悪いんですか」

「顧問税理士は債務超過でも問題ない。どうしようもない」

「顧問税理士は経常利益は赤字でも、特別利益で黒字になれば大丈夫と言ったのに、融資を止められた」等の話を聞きます。

これは、経営者が会社の実態を正確に把握しておらず、かつ、顧問税理士(多くは、無資格の職員)も把握出来ていないのです。言い換えると、経営者が変わらなければ(現経営者の意識改革+後継者への権限移譲)会社の実態を正確に把握できないのです。

- 経営者が変わらなければ、会社は変わらない(黒字化出来ない。収益が増えない)のです。メルマガNo.33に書いた「理想的な流れ」を自ら引き寄せてください。「手遅れにならないように」してください。